

動物たちを救うアニメルパスウェイ

アニメルパスウェイから学んだこと

滝沢市立鶴飼小学校

六年

細谷 ほそや ころ

私は動物に興味があり、以前から生き物に
関する本を読んできました。今回、この「動
物たちを救うアニメルパスウェイ」を手にと
ってみると、実際に観察された記録のようだ
ったので、小説や物語にはない具体的な知識
を得られるのではないかとわくわくして、深
く読み進めてみたいと感じたのです。

ヤマネの研究者である湊秋作さんは、山梨
県のハケ岳でヤマネの観察を続けていました。
そのヤマネのおみかが工事によって分断され
てしまうので、湊さんは、海外の専門家、山
梨県の担当者、建設現場の人たちとよく話し
合い、ついにヤマネブリッジへアニメルパス
ウェイの設置にたどり着きます。さらに、
一般の人々に、動物たちの環境について理解
してもらうために、広告や百貨店でのイベン
ト、PR活動など、できることをどんどん実

現していきまます。

私が特に心に残ったのは、湊さんの「私は
ヤマネの翻訳者でありたい」という言葉です。
自然を対象にした研究者の仕事の一つは、自
然の言葉を伝えることだと湊さんは言います。
今回の工事は、ヤマネの立場に立って考える
と、命に直結する問題です。そう思うと、私
は胸をしめつけられるようにつらく感じたの
ですが、湊さんはそこで終わらせず、ヤマネの
言葉を伝え、解決策を考え、それを実際に行

おうとしたのです。

私も、生き物を大切にしたいと思う気持ち
はもっているつもりでした。しかし、今回気
付かされたのは、今ある環境を当然のように
受け入れるだけでなく、人間にも動物にもよ
り良い形に改善していくことができないか考
えてみることもできるのだという事です。
もしかしたら私も、小さな生き物が生きる環
境に対して、できることがあるかもしれない
という発見は、私にとって大きな発見でした。

この本を読むまでは、森が分断されるという出来事は、私にとってはもう取り返しつかない出来事でした。アニマルパスウェイの完成でこの問題を解決した瞬間を詠んだ時、私は大きく両手を挙げて「うわあ！」と喜びたくなりました。そして、周りの景色が今までと少し違って見えるようになりました。

アニマルパスウェイについて調べていくと、なんと盛岡市と滝沢市の境界付近に、アニマルパスウェイが二〇一六年に設置されたとい

うことが分かった。なので、お父さんと行ってみました。それはニホンリス用で、想像していたより幅が狭かったです。しかし、丈夫そうでした。取り付けられている木には、樹皮の保護のために特殊な布がさかかっています。ニホンリスだけでなく、木林の樹木も一箱に守っていることもしかりました。

私も漆さんのように、動物や自然の声に耳をかたむけ、自分にできることがないか、積極的に環境にかかわっていきたいです。